

ふるさとの文化財探訪

中世の野原は何に利用されていたか？

文化財調査員 種村英大

くじゅう連山の南側（竹田市久住町）の野原では、鎌倉時代に「源頼朝による富士の巻狩り（狩場を多人数で包囲し、

鹿や猪などの獲物を射る軍事演習。火を放ち包囲することもある。）に先立ち梶原景高が阿蘇の下野狩の礼式を学ぶため当地を訪れた際、予行練習として久住山山麓で巻狩りが行われおびただしい獲物が獲れた。しかし一帯が殺生禁断の地であったことから、獲物の供養のためお寺の名前を『猪鹿狼寺』と号するようになった」という記録が残っている。

では、くじゅう連山の北側、玖珠郡の野原では巻狩りが行われていたのだろうか。大友氏の記録から考えてみたい。

大友義鎮の書状には在地豪族の右田氏に対して、領内の狩りについて猪や鹿をしとめる狩りの法式をきちんと守るようにと申し伝えることが記されている。また大友義統書状では玖珠郡と隣接する小国の豪族北里氏に対して、猟犬一匹を送ることに言及した後、玖珠境の山へ猪鹿を追いかけてきたことに対して、玖珠境といえども狩の法式を守り、双方

（小国及び玖珠）異議がないように取り計らうようにと記すなど、大友氏の記録には玖珠郡における猪鹿の狩りの方式に関する記述が散見される。「當家年中作法日記」は、文禄四年（1595年）に大友義統が大友氏の年中行事について記述したものであるが、旧暦三月十日以降の野焼きが行われる時期に各地で狩りを行っていることが記述されている。その様子は猪狩りの時に猟犬を立てて、玖珠・日田衆が参加して待ち伏せをして獲物を追いたて、玖珠郡の野上大和守が相うちをかけるなど、巻狩りそのものである。

以上のことから、玖珠郡の野原でも軍事演習としての巻狩りが行われていたことが想起される。いずれにしても中世の野原は武士たちの軍事演習の場であったのである。



泉水山

演習の場であったのである。

幸せになろうね



No.304

2021年度 第3回なるほど“ザ”人権講座 （今年は九重町教育委員会による主催）

第3回の講座では「部落差別の歴史を知る ～学校における部落問題学習～」と題して、飯田小学校 教諭 小西尚史さんを講師に招きました。講座終了後に、本日感じたことについてアンケートを書いていただき、以下のような記述がありました。（一部抜粋）

- ・差別は国や制度により起こるというよりも、個々の意識により起こるものだ改めて感じました。“新たに出会う人を差別しない側へ”という言葉から、若い人、子ども達がみんな差別しない側になることで、いつか差別がなくなるのでは！？と大きく期待を持つことができました。
- ・差別を難しく考えすぎてもわからないので私は差別しません！！（特に部落差別）その気持ちを他の人にたくさん伝えて差別しない側の仲間を増やしたいです。

- ・歴史の中で差別がずっとあり、どのように身分制度ができてきたかがとても分かりやすかったです。優位な立場や、多数：少数により個人の気持ちに変化することで差別する気持ちがでてくるところが図解で分かりやすく気持ちの持ちようが変わるきっかけになりました。
- ・被差別身分の歴史の背景を知ることができました。制度廃止にもかかわらず、今現在にもつづいている事は人間の欲。「自分は他人より優位である」という心理から今現在も残っている風習である、この考えは差別のすべての行為につながっている事だと思います。
- ・6年生の学び方を詳しく知る事ができました。自分が学んでいた時は（学生時代）一方的に教え込まれていたという感じでしたが、現在は子ども達と一緒に学んでいくという感じがとても素晴らしいと思いました。
- ・大人も社会科のこの話しの学習をすると良いと思った。
- ・「学びと正しい出会い」ととても大切なことだと思います。学んだことは時が経つと忘れてしまいます。だから常に学ぶ姿勢が大切です。自分から学ぶ機会をもとめて行動していければと思っています。
- ・子どもが6年生です。学校でこのようなお勉強がある事をはじめで知りました。お家でも子どもとお話してみたいと思います。
- ・6年生が使用している社会と道徳の教科書をぜひ拝見したいと思いました。自分が小学校の頃に学んだことをもう一度ちゃんと学んでみたいです。
- ・本日、学習した事を家庭で例をだしながら差別、いじめなどについて話しができたらと思いました。

紙面の都合上、詳細について掲載することができませんが、ご質問等がございましたら、社会教育課（☎76-3823）までお問い合わせ下さい。

社会教育課